



## 概要

帯広市は、十勝平野の中央に位置する中核都市であるが、マイカーへの依存度が極めて高い。これは、実際の市民の移動ニーズとバスサービスの内容が乖離していることが原因の一つと考えられる。そこで、適切なバスネットワークの形成、利用促進策の推進等により、安全で安心な移動を可能とする地域の足を確保し、ニーズに適したバスサービスの提供、自動車利用の抑制と公共交通に肯定的な市民意識の形成を図り、公共交通の活性化とともに地域全体の活性化を実現する。

### 適切なバスネットワークの形成(21~23年度)

- 市内の西地区において、現行路線ではアクセス困難な南北移動を可能とする「国立病院機構帯広病院からイトーヨーカドー間」及び「西地区周辺循環」の新規2路線の導入実証実験を行う。
- 「帯広の森」、「緑ヶ丘公園」の公的施設へのアクセス向上のため、路線改編による実証実験を行う。

### 利用促進策の推進(21年度~)

- 効果的かつ効率的なモビリティ・マネジメント(MM)を展開し、マイカー依存から公共交通機関への自発的転換を促す。
- 新規2路線のわかりやすいバスマップ・時刻表を、作成・配布する。
- 市民一人一人のライフステージに合った、情報提供を行うことで、バス利用の促進を図る。
- 高齢者に対する公共交通をテーマとした教育プログラムの実施等による利用促進策を展開する。



## 帯広市地域公共交通活性化協議会 計画事業の取組状況

主な事業内容	協議会開催状況	2回開催	分科会等開催状況	-	回数は、平成21年度末までの開催予定
<b>新規バス路線導入実証実験</b> ・南北線(国立病院機構帯広病院~イトーヨーカドー) ・西地区縦循環バス  <b>新規路線を対象とした情報提供</b> ・わかりやすいバスマップ・時刻表作成・配布  <b>モビリティ・マネジメントの推進</b> ・路線バスの実証実験に合わせた住民アンケート(住民MM)実施					
			ライフステージに応じた情報提供によるバス利用促進 ・小学生、高齢者を対象としたイベント等の情報提供を整理または企画する。  高齢者に対する公共交通をテーマとした教育プログラムの作成・実施 ・交通と安全や、交通と健康などの情報を整理し、公共交通に対する理解度の向上を目的としたプログラムを作成・実施		

実施状況	自己評価のポイント	二次評価のポイント
<b>新規路線実証運行</b> ・南北線 運行期間:平成21年9月~平成22年3月 便数:14便(1方面7便) 帯広西地区における南北方向への移動を可能にする。 東西方向への路線との連結を考慮し、総合的にサービスレベル向上。 ・西地区縦循環バス 運行期間:平成21年9月~平成22年3月 便数:12便(1方面6便) 帯広西地区区域内移動を可能にする。 教育施設、福祉施設、商業施設を結び、(コミュニティバスをイメージ) <b>新規路線を対象とした情報提供</b> ・新規路線バスマップ・時刻表の作成・配布 部数45,300部(一部:MMアンケートに使用)	新規バス路線双方とも利用率が低迷しているものの、通勤、買い物、施設利用など必要な事業と判断している。 ・利用者数が目標を下回った原因は、開始時における周知方法であると分析。 ・ニーズに即した路線形成や時刻の一部見直しを図り、利用率向上に向け検討を行った。	実証運行路線沿線へのモビリティマネジメント ・公共交通への理解、認知度向上及び自動車から公共交通への転換を目的にアンケート実施 ・沿線住民 5,000世帯 ライフステージに応じた情報提供 ・イベント等の情報を整理し、外出を誘発する情報提供を実施 ・対象:小学生、高齢者 高齢者に対する公共交通をテーマとした教育プログラムの作成・配布 ・帯広市主催の高齢者学級で自動車の危険性や健康への影響及び公共交通利用のメリット等の情報提供を実施 ・対象:高齢者学級 生徒115名 ・適切なアンケートの実施 ・バスお試し無料乗車券の作成・配布
	利用実績が低い現状、自立性・持続性の観点から、一部事業見直しについて具体的な検討をするようアドバイスする。	